学校	学科	班	各班のテーマ	個人の探究課題	各班の仮説
「あおもり創造学」 八商発！郷土愛 ～地域と共に～	商業科 2年1組	1	ハチカを利用した八戸の魅力再発見！	ハチカはバスの運賃支払いのためにとても便利であるが、利用の範囲が限定されている。もっと使いやすく、利用範囲を広げられれば利用率も高まり、市民に対する認知度も上がるのではないかと考えた。	ハチカの利用率を上げるために、ハチカのデザインの種類を増やすことで、ハチカを使いたくなる人が増えるのではないか。
		2	八戸の祭りの魅力を伝承する	八戸には歴史や伝統のある祭りがあるが、最近は参加者も減少し、祭りについての知識を持った人も減っている状況がある。これを何とか解消するために祭りの技術や歴史を伝える機会、場所を作って祭りを守っていきたい。	地域の祭りについて詳しい人をバンクに登録してもらい、講師として指導してもらうことで、若い人や小さな子供に祭りへの興味関心を高める教室のような場所を作り、祭りを盛り上げれば祭りに参加する人が増えて祭りを持続できるのではないか。
		3	八戸の魚の現状と活用	八戸は漁獲量が多く、魚の町として有名であったが、最近自分も含め魚嫌いが増えているように感じる。なんとか魚を身近なものと思って消費量を増やし、もっとおいしく食べる人を増やして魚の町としてもう一度盛り上げていきたい。	八戸市民に魚についてのアンケートを行い、魚への関心度や地域による食べ方の違いなどを調査する。その結果によって魚に触れて、簡単に食べられる料理方法を教えるイベント等を季節毎に実施すれば魚の消費量も増えるのではないか。
		4	郷土料理を新しい形で伝えよう	八戸は自然が豊かで、観光名所もたくさんあり、さらに、おいしい郷土料理もある。この自然環境やおいしい料理を広く知ってもらうために、郷土料理を作りやすくアレンジした料理方法や講習会などの情報をＳＮＳで発信して八戸を料理で盛り上げることはできないか。	有名な郷土料理を調査して、アレンジ料理を作ってみる。その上で初めて作る人でも簡単にできるよう地元のお店の協力を得なが新しくて、シンプルな料理法を開発し、そのレシピや作り方をネットで情報発信すれば八戸が活性化するのではないか。
		5	中心街の魅力を広めて、人を呼び込もう！	八戸の中心街は、だんだんと人が出かけなくなり寂しくなっている。もっと町のことを知っている人を活用して楽しく、町を理解するイベントなどを実施すれば、町に興味を持つ人が増えて、空き店舗を活用した若者を楽しませる店も増やせるのではないか。	街の歴史や伝統、町の魅力をもっと市民に理解してもらい、イベントや空き店舗を上手に活用しながら大人だけでなく、子供も楽しめる場所にして中心街を活性化させることはできないか。
		6	八戸駅周辺を盛んにしよう	八戸駅は新幹線も通って人の動きが多くなっていると思うが、駅前は店も増えず、大きな変化が見られない。逆に裏の西口方面は家も立って、学校や、スケートリンク、新しい施設もできて発展している。観光で来たお客様もに楽しめる環境を作れば駅前の活性化ができるのではないか。	駅の周辺では何が必要とされているかをアンケート調査した上で、八戸の魅力となる飲食店やイベントを楽しめるお店を出店できるように計画して、人を呼び込めば駅前がもっと活性化するのではないか。
		7	「鬼ごっこ」 ～現代の子供の健康と地域をつくる～	八戸は魅力ある町だが、人口減少は確実に進んでいる。人口減少を食い止め、新行事を作り出すために昔からある遊びの「鬼ごっこ」を活用したい。これは単純で、大人から子供まで楽しめるし、これに運動的な要素を加えて健康的な遊び、そして新しい行事に育ててみたいと考えている。	遊びとしての「鬼ごっこ」を改良し、親子で楽しめる形や、発展して、運動量の高い形に作り代えれば健康的な遊びになる。このようにバージョンを増やして様々な目的を持たせればいろんな人に体験してもらえて健康になる新しい行事になっていくのではないか。

学校	学科	班	各班のテーマ	個人の探究課題	各班の仮説
「あおもり創造学」 八商発！郷土愛 ～地域と共に～	商業科 2年2組	1	人口減少 ～若者の人口を増やす～	八戸の町づくりの現状を知り、魅力や情報の伝え方にはどんな方法があるのか知る。	・八戸の魅力をポスターにすることで魅力が伝わるだろう。 ・SNSで宣伝することで県外の人にも広まるだろう。 ・パンフレットを作ると多くの人に魅力が伝わるだろう。 ・作成したパンフレットを八戸のホームページに掲載していただくと見てもらえるだろう。
				若者が流出している原因を研究し、八戸の魅力を広める。	
				若者が八戸に残りたいと思えるにはどんな場所があれば良いのか研究する。	
				八戸市に住みたいと思える人が増えるように、まちづくりの取り組み・魅力を広める。	
		2	地域の学生が自由に 集まれる場所を広める	どうやって知ってもらうか。	その場所を宣伝することで知っている人が増える。
				知っている人が少ない。	魅力を私たちが知ることで、宣伝しやすくなる。→行くしかない。
				行きたいと思える魅力を伝えれるようにする。	ポスターを作り、見てもらうことで、多くの人に知ってもらう。
				学校の人たちに知ってもらう。	SNSやホームページを活用することで、きっかけになるかもしれない。
		3	食を通じた人々の交流を 増やしたい	子ども食堂があまり知られていないため、広めなければいけない。	SNSなど使って宣伝する(チラシなど)ことで企画などに参加する。
				子ども食堂の存在を食を通じて広めたい。	
				こども食堂の利用者数が少ない。	
				子ども食堂の現状を知り、私たちに出来ることをやり、子ども食堂を広め世代交流を増やしたい。	
		4	海と共に生きる私たち ～海とウミネコを同時に守る～	海のごみによってどのような弊害があるのか。	・ボランティア活動をする日の予定表的なものを作れば活動が活発になるのではないか。 ・小さい子から大人までみんなが簡単に参加しやすいように、お礼などを用意し達成感ややりがいを作れば楽しくゴミ拾いに参加できるのではないか。 ・ゴミ拾いのボランティア活動を行っていることを、ポスターやCMなどで宣伝していけば海付近のごみが少なくなったり、ごみを拾う習慣がついたりしてごみの減少につながるのではないだろうか。 ・ごみ拾いなど活動をポスターやSNSを使い宣伝することで現状を知ってもらうことができる。
				捨てられたごみを再利用するとどんなメリットがあるか。	
				海洋ごみは海の深さによって異なるのか。	
				海がきれいになることで観光客が増加するのではないか。	
		5	「人口減少」 若い人に八戸の魅力 を知ってほしい	伝統芸能の後継者の現象を食い止めるための活動。	・伝統芸能の魅力を伝えることで、魅力を知ってくれる人や、後継者が増えるだろう。 ・空き家や廃校を利用した企画を計画することでその場所に活気が出てくるだろう。（子供を対象にしたイベント企画の開催、フリーマーケットの会場にする） ・空き家をみんなの公園みたいな遊び場みたいな場所にできればその場所が明るくなるだろう。
				空き家の増加に伴いどのような活動が必要であるか。	
				学校が廃校になったり、減少したりしている現状をどう改善していくか。	
				伝統芸能の後継者の現象を食い止めるための活動。	
		6	空き家をリノベーション して、地域を活性化	空き家のリノベーションをするときに費用が多くかかる。	空き家について動画を撮れば来てくれる人が増えるだろう。
				「現在の空き家」の状況があまり知らされていない。	空き家の状況を知ってもらうことで空き家を減らすことができるだろう。
				リノベーションにお金がかかる。	空き家を八戸の魅力に変えることで八戸に移住する人が増える。
				空き家が増加している。	空き家を市民が必要とする建物にすることで地域活性化になるだろう。
		7	子どもたちの新しい場所 にする駄菓子屋	駄菓子屋で広げよう！地域の輪！	駄菓子屋を広めることで子供たちの居場所になるだろう。
				子どもたちの地域との関わりを増やし、子どもたちが集まる場を増やす。	子供達の居場所を作ることで地域コミュニティが活発になるのではないか。
				駄菓子屋の存在を広め利用者を増やすには。	駄菓子屋を広めることで子供たちの居場所になるだろう
				地域のコミュニティを広げて明るい地域づくりへ	子供達の居場所を作ることで地域コミュニティが活発になるのではないか。

学校	学科	班	各班のテーマ	個人の探究課題	各班の仮説
「あおもり創造学」 八商発！郷土愛 ～地域と共に～	情報 処理科 2年3組	1	八戸で働いている外国人労働者の数が年々増加しており、八戸と外国の文化の違い理解しあうために、郷土料理を通して交流する。	外国人労働者の偏見をなくす。	①八戸の郷土料理を通して、文化の違いを理解し合えるのではないか。 ②イベントを開くことで、外国人労働者の日本への意識が高まるのではないか。
				外国人労働者の文化を理解する。	
				外国人労働者の出身国の文化について知る。	
				郷土料理や国際交流の背景を考え外国人労働者の本音を聞き、お互いの文化の違いを理解する。	
				データなどの情報を正確に調べて、情報共有をしっかり行い、お互いの文化の違いを理解し、解決方法を考える。	
				外国人労働者と八戸市民が直接交流し、郷土料理を通してお互いの思いを知り、理解を深める。	
				外国人労働者と情報を共有し郷土料理を通してお互いの文化を知る。	
		2	資源ごみの回収率と資源ごみの循環過程の理解度が低いため、ｗｅｂサイトや資源ごみについての動画を作成し発信する。	リサイクルのメリットを知る。	①ごみの循環過程やごみの回収場所を知らないのではないか。 ②ごみを捨てることができない高齢者がいるのではないか。 ③ごみの排出量が他の市町村より多いからではないのか。
				リサイクルをしながら地域と関わっていく方法を探す。	
				ごみの分別や再利用する意識を高めるためにリサイクル後の活用例を調べる。	
				資源ごみを洗ったり分解したりする作業の面倒さを削減できるような方法を考える。	
				高齢者が苦労せずにごみを捨てられるような場所や環境を作る。	
				ポイ捨てをなくすためにごみ拾いや呼びかけを行う。	
				ごみの循環過程の種類を理解し、八戸市内で行っている活動を調べまとめる。	
		3	八戸市にくつろげる場所がないと考える高校生が多いため、高校生のくつろげる場所を認知できるようにしたい。	くつろげる場所をより多く知るために、実際に自分も訪れてより良いホームページをつくる。	八戸市のくつろげる場所のホームページをつくり、PRをすれば八戸市の人口増えるのではないか。
				高校生がくつろげる場所を知らない理由を深く探求し、結果を活かしながら制作を進める。	
				誰にでも見やすいホームページを作り、閲覧者数を増やして認知度をあげる。	
				友達などに聞き込み調査をして、テーマの解決に何が必要か考える。	
				八戸市の人口についてのデータが不十分なため、しっかりと前準備をして解決に望む。	
				インターネットを活用して、書き込みをしている人達の意見も集めながら進める。	
		4	八戸市の観光客をコロナ禍前の人数、それ以上に回復させる。	海以外でも楽しめる場所があることを知ってもらう。	秋や冬はイベントが少ないため、八戸市に来る人が少ないのではないかと考えた。位置情報アプリを使って、アプリ利用者を呼び込むことで、観光客増加に繋がるのではないか？
				位置情報アプリの利用者を増やす。	
				SNS等で八戸の海を多くの人に知ってもらう。	
				イベントを開いて八戸のことを知ってもらう。	
				八戸の海の魅力や詳細を外部の人に伝える。	
				多くの人に八戸市について興味を持ってもらう。	
		5	投資についての苦手意識や始め方がわからない人が多いため、投資について学び、投資教育の活動に取り組む。	NISAの仕組みについてよく理解し、まとめる。	投資教育を普及させることによって、投資の利用者が増えるのではないか。
				投資について学んで、投資の良さを広める。	
				NISAについてわかりやすく整理してまとめ、より身近なものにする。	
				NISAをしっかり理解し、投資教育の活動に積極的に取り組む。	
				ビジネス視点と関連付けてＮＩＳＡについて知る。	
				積み立てＮＩＳＡをよく理解し、細かいところまで課題解決に努める。	
				投資についてたくさん調べ、理解し、活動の選択肢を増やす。	
		6	釣りの魅力を知ってもらい、心から釣りを楽しめる人を増やす。	SNS等で八戸の釣りについて多くの人に知ってもらう。	①朝市で活動することによってその場で釣った魚を食べられることに価値を見出し、利益を生み出すことができるのではないか。 ②釣りの初心者向けの情報をまとめたサイトを作ることにより、初心者でも釣りを楽しめるのではないか。
				釣りに興味を持ってもらえるような発信をする。	
				まとめサイトを作って外部の人に伝える。	
				釣りをする人を増やす。	
				釣ること以外にも準備など楽しいことがあることを知ってもらう。	
				釣り経験者の視点から、釣りの魅力について知ってもらう。	